

自由連合

Liberal Federation 1970

7月20日

N-ro 18

編集 山崎 34
発行 山崎 34
自由連合社

定価 30円

送金口座へ
振替 大阪 1264

Ω 来阪の際はアジトに遊びに来てください。
連絡待っています。

新しい関係の創出へ

自由連合の旅

北海道
東京
九州



あつた。
この試みは、ほく何人にとつて、いままでの自由連合社との関りから、一歩前に踏み出す意味を持つていた。それは出発前ほとんど漠然としたものであつたが、各地を歩くにつれて、次第に明らかになりつつあるものとして見えてきたような気がする。

不可視の「ミューン」運動

① ちくほつー中調市では、労働運動、とりわけ下請労働者の問題、青年団員問題、農林青年による自主的な反戦青年会、公営問題に取り組む市民運動など、いすれも地域に根ざした問題を、様々な角度から様々な射つことがされていく。中調市という一つの区域といふような角度から攻めるといふこと、但別を射つて全体を隔すというやり方は、新しいコミュニケーション運動と呼べるだろう。

② もちろん、ちくほつー

という地域の、地理的・経済的・空間的特殊性といふ一つの現状のなかから、それらは生れていくことを見のがしえない。それゆえの都市性とたまたま接触したせまい範囲の人たちからの見聞にかきまわるといふ問題を前提にしても、よく注目すること、ちくほつーでは、何人か複数の運動に参加していること、それゆえの運動が有形的・重層的に多層的な運動から、補完しあうへ目に視えない運動を構成して、へ連合ををつくっていることであつた。

③ 複数の運動がへ連合

してあるといふことは、たとえは、まずはじめにAの運動・Bの運動それそれの別特殊性を——云わば異領域の問題を——それそれのものと相互にへ承認するこ

④へ承認がより積極的であつた

き、それはA・Bともに相手にその運動をへ開きながら、へ関係するものである。

①へ関係とは、相手にとつての自己の位置——従って役割を、また自己にとつて相手は何か、をめぐらしかし、その意味をつくり出すことである。

②このようにして、自己主体をより明確にするものとして、相手とのへ関係へを創り出すことは、そのまゝでへ連合をすることにはかならない。

④ちくほつーの問題は、ちくほつーにある現状だけで特殊されてはならない。それは普遍的にほく何人かの問題である。

なせなら、ちくほつーにさまざまな運動があるように、またほく何人かの地域にも、さまざまな大小の運動体が存在している。ただほく何人かにとつては、それらほく何人かとつてありバラバラであること、つまり、いままで全く見落されていたのだ。すなわちそれらがへ連合されていく。へ関係をしていないというところ、そしてそれに気付かず、その重大な意味を見落していったことにこそ問題がある。

⑤たとえほく何人かの住む大阪には、何々にはすばらしい運動がいくつもある。が単なる利用のわくを超えて、真の連った運動が連合しあっている例はほとんどない。但別であること、つまり、欠落しがちな異も、連合することによって補えるものが多い。連合の網は、但別運動で含み得ない空間、但別運動では敵対せざるを得なかったものをも一部に含み

うる可能性がある

⑥このような連合をいかに実現し、社会に広げていくのか。それは連合社会を志向する人が、自分ととりまきあひの運動、組織、人間関係をより意識的に連合させようとする自分の意識の変革から始まるしかない。ちくほつーの関りにほくが学んだ事は、まさにその点である。それは70年代の状況の要求なのである。

へ平連などの問題

⑦広島でのへ平連の人との話のなかでこんな発言があつた。
「このごろホモが多すぎる。集まらなから今日は何のホモやっただけと考える始末だ。どのホモも同じで、フラカートのスローガンが一部違っている程度だ。参加する者もへ平連に行くのであつて、沖縄戦争に参加しているという意識はほとんどないのではないか。」

⑧このような問題は何れもへ平連にのみ特徴的なものではない。どんな運動も、ある程度運動が広がると必ず出てくる問題である。また、どんな運動でもそれだけでコトタレリという運動は存在しない。運動はつねに動き、変化してこそ運動である。そのために、状況のなかで自分と運動をたゆまず打ち壊わし、創造していく自動律をもたねばならないだろう。

⑨へ平連に限って云うならば、福岡へ平連内に「納税者へ平連」という形があるが、このような但別へ平連へ地域へ平連・大学へ平連に対して取り組む具体的問題によって、準拠する集団への組みかえも一つの方法であるように思う。へ平連はたしかに従来の市民運動にない新しい層を階列に加え、新しい関りの分野を開拓した。しかし、へ平連だけであつてよいのではない。いつも、へ平連のほかに何が必要なのか。へ平連のつぎに何が来るのか。を考へておかなければならない。そこに、但別へ平連などの、へ平連そのものの変革を迫るものが生まれてきたりする。ここにも、へへ平連と何のへ何かとへ平連という状況のなかでの連合の問題にぶちあたらざるを得ない。
(次頁につづく)

70年代のへ平運動を考へるのに
どうしても欠落してはならない不
可避の視座である。

自由連合派と自由連合

⑩ 東京では6月開争を前にし
て、各大学アナ研を中心に「自由
連合派」が結成され、デモではか
なり多くの人を「自由連合」の
黒旗の下に結集することに成功し
た。ぼくはそれを高く評価するが
「ヘアナキズム」あるいは「自由連
合」に関して、ぼくと少し考えが
ちがうところがあった。ヘ一連の読者
会で言えば、北大アナ研、福教大
アナ研の一部の人との間で論争し
たこともある。

⑪ 「自由連合」は既成の概念
でいえば組織ではない。逆説的に
は、それ政全く新しい未知の組織
概念としてつくり出さねばならな
い。一個でも自分自身しる他人
やクルーが、その個性を失うこ
となく、様々な地味でさまざまな
形の陣いを組むので、その総合
された力が最大の効果をあげるも
のである。①で紹介したくぼく
の陣いが、ぼくの考える自由連合
による陣いをかなり具現してい
る。ぼくにとつての「自由連合」
は、イデオロギー的概念であるま
えに、何よりも現実運動の形態と
してある。

⑫ 現在、党派を結集すること
にあまり意味があるとは思えない。
一つの党派や、その党派の結集へ
「何れも統一」が唯一の方法とし
て提出されるのではなく、党派を
結集することによって、状況全体
に対して、明確に力をつける加し
えるものであれば良い。それには
結集すること自体が、部分への参
加であることが自覚されていなく
ればならない。それによって不可
視のコミュニティが徐々に具体的
に形をなすような自由連合がめざ
されねばならない。

⑬ いま必要なのは、自由連
合をめぐり新しい運動の登場で
ある。運動の新しいとは、運動を
構成する人間の相互の関係の新し
さであり、自分が内と外に対して
いかに開かれていくかの問題であ
る。自由連合社会は、他者に対し
て社会に対して開かれることによ
ってしか実現しない。自連の運動
とは、基本的に結びつき、関係の
運動なのである。

政治の奪還

⑭ 最近、自連の読者層はますます
多岐にわたっている。映画・演劇
運動、共同体運動、ワークキャンプ
運動等々。このような状況のなか
にあって、「自由連合」はもうろん
ある一つの傾向に取れんされるよう
な行動と思想の固守と絶対化を拒否
する。それそれの場での、百花らん
漫たる運動の総開花が自由連合であ
る。

⑮ たとえば政治運動といつても
人民の視座——すなわち大衆の生活
と直結する問題を扱った政治運
動であれば、何も生み出しえない
70年代の政治開争とは、大衆自身に
よって選ばれた場で、大衆にとつて
の政治を奪還することであらう。
それは自然と、陣いのありか形を
豊かなものにしてくれる。

⑯ 旭川や札幌でも共同体や労働
キャンプへの関心が生まれつつあり
共同体の方でもキヌツ協会を中心に
コミュニケーション連合として街頭に出るよ
うになっている。大衆的視座による
政治を求め運動が、いろいろな
形で開始されたのだ。

確認の旅に出よう

⑰ 自分と状況の関係を明らかに
するために、旅に出よう。現在の自
分の視座と位相を疑ってみることは
自分と他のものの関係を思い出す
うえで、必須のものだ。

挫折と低迷に陥ったとき、自分の
依拠する空間を変えてみよう。それ
は流動する状況のなかで、自分と自
分の原素をとらえなおすことである。
自分と状況との関係を明らかにする
ところから、自由連合への志向はあ
る。

九州——広島——東京——北海道
でのぼくの経験は、これから意味を
もってくるのかも知れない。

夏だぜ、部屋にゴロゴロしている
なら旅に出よう。沖縄——北海道、
全日本七百人の自連読者とアマライ
関係に入りましょう。

(尾関 弘)



自由連合派の課題はなに

「全体革命への飛翔」より

自由連合派の運動が顕在化しない
のはなぜか。

それは①前衛党方式からの訣別が
不十分であったり、理論的深化が不
充分であったりすること、②運動が
分散していること、③諸セクトの運
動方式に代る運動方式を創出して
いないこと、による。

以上3点の必然的帰結であり、
原因でもあるのは活動家層が薄いこ
とである。そこで活動家を形成しつ
つ、運動を推進していくには、④コ
ミュニティ共同体を追求し、開放
性・多様性・水平性を原則としつ
つ、自己変革を重ね、生産者への帰還を
なしとげていく。⑤構成員のイデオ
ロギー的一致を前提とせず、共同作
業により原理論の構築を行っていく
「アナ研」、⑥構成員のイデオロギ
ー的一致を前提として、現状分析、
戦略構築の「イデオロギー集団」、
以上3者の相互浸透・相互媒介によ
らなければならぬ、そして分散性
の克服、相互浸透の保障のためには
自由連合派活動者会談、アナ研連絡
会談の設定が必要である。

こうした自由連合派運動の基本構
造の下に、現在の開争状況であり、
未来の自治管理組織の萌芽である自
立的運動体を各大学、各職場、各地
域に創出し、その連合による開争を
推進する必要がある。

個別開争においては、その深化を
追求しつつ、支配権力解体の為の政
治開争を直接行動によって追求せね
ばならない。この場合における直接
行動とは、自己解放の思想の表現形
態として、直接、解放へ自己権力
の奪還、確立を追求することを指
す。この直接行動は軍需産業を中心
とする国家権力の基盤そのものの解
体へと進まねばならない。



⑧ 「暴力論ノート」を讀
むかい／大阪では二ヶ所
で行っている。一つは毎
週木曜日七時から。もう
一つはオース・日曜にか
ける深夜学習。向い合わせは自連派
⑨ 新しく二冊のパンフ。

(i) ハギシン著「アナログ・サンジ
カリズム」 (ii) ニコラス・ウォルタ
ー著「今日のアナキズム」申し込めば
東京都武蔵野市緑町2-3-1の401ベルテルの会

太陽の塔ハンス

四月二十六日夕刻、万博会場太陽の塔の頂上にある目玉の部分に昇って万博粉砕しを叫んだニュースは、日本はもちろん海外にまで広く伝わった。その真相はどうだったのだろうか。

三日午前八時半ごろ、彼は逮捕され、直ちに吹田署に留置された。われわれは、一週間もハンストでがんばった彼を直ちに入院させるようにと、吹田署に交渉に行った。担当の刑事は愛想よくわれわれに会い、彼は思ったより元気で医師も留置に耐え得ると診断した。今、病室内でよく眠っているから、度見は六時すぎにしてほしい、ということだ。

六時すぎのはずの弁護士接見は八時すぎになった。その結果、次の事がわかったのである。

1、塔上には食物は一切持参しなかった。ただ三十日に係員が水少しと給一口をくれた。それ以外一切飲食をしていない。

2、阪大医学部教授と名乗る男が三十日ごろから説得に当たった。この日の朝報が、(4)記者会見をさせろ(4)直ちに阪大病院に入院させろ(4)大学入の名譽にかけて警察には渡さない、といったので、ふと降りる気になった。降りたら直ちに逮捕された。だまされたのだ。

3、吹田署での警察医の診察は拒否した。

4、取調へには一切黙答している。今後ともハンストを続ける。健康状態は若干かき味である。尿がコーヒート状である。その他特に異状はない。

弁護士は、一週間もハンストした者を医師の診察もいまま病室内に留置することの不当性に抗議し本人の委任状によって医師の診断を要求したが、警察は拒否した。明るく四日早くも警察は彼を送検、大阪拘置所に移した。その後面会文通などかわったことは次の通りである。

1、六日の昼になつてハンストをしたとき、住所氏名を認め、医師の診断をうけた。
2、五月八日広島地裁公判へ(広大死守闘争)出廷を申し出たが出

送されてくれなかった。
3、塔上に居るとき、説得に来た男に命綱をほしいといったところ、長居されると困るといって断られた。

五月十八日佐藤君の勾留理由開示公判が大阪地裁であった。例によつて裁判官の言う勾留理由が刑法六十条に照らして極めて薄弱であること、ただつけつけからんことをしたという予断で勾留していることが、弁護士に追求で明らかになった。佐藤君の塔占拠の理由は彼の手紙(別項)にはつきりしている。佐藤君に手紙を書こう。書籍を差入れよう(関西救済連絡センターへ大阪市北区浪花町二二五で取りつぐ)。



十一日頃からけつけ症状、歩行困難、毎日、B注射をしています。一週間ほどでなつてしまふでしょう。

十三日の勾留理由開示公判は十八日に延期、最初は理由開示を形式的に要求して当日は何も云わなかつた。政治的主張をせしめろとのことで、万博が国家権力の自己顕示のショー、三・一五中央口のデモの弾圧のよう

拘置所から

大拘在監 佐藤英夫

に、権力が人民の正当なデモンストレーションを妨げている時、たとえ僕のとった様な自己表現の方法は、非常手段として認められるべきではないか、それを問わすに眼の中に入

ったのは建物侵入、サーチライトが使えなかつたから業務妨害、と行為を分解して、形式的な違法のみを問題にしている。状況の中の行為の全体的な意味こそ問題だ。と(これからの公判に對し、注文として)主張しようと思ひます。

このところ、取調へが実につく長く長時間くりがえされています。へ赤軍との関係について、十五日、中嶋検事を呼んで、黙秘の意志を明らかにしているのに、長時間自供を強要するのは黙秘権の侵害だ。また、取調へにあつては吹田署佐藤刑事の雑言悪口は人権じゅうりんだと申し入れをしました。

十六日、今度は、松井刑事が代つて取調へへ彼はニューレフトの本を三、四冊読んでいる様子、いろいろ、セクトに関する知識をいけりかして見せて、拳銃、丁お前は学生運動に寄生している新手のたかり、かたりにちがいないという。いかにむ刑事らしい俗言かんぐりでそれによつて彼の人格が遂に推察できるわけです。

僕のいるところからは、真南に大阪城が遠望できます。西南に巨大なビル、夜は一面にネオンサインです。拘置所に住みついてはいるハトが数十羽、食事ときに窓の下に集まっています。

まさに最良の学習環境。学習計画をたててみました。歴史は高校程度のものをさらってから、日本人の書いた唯物史観を何かやってみようと思つています。日本史、世界史、どちらでも結構です。事実関係がくわしい参考書がありませんか？
文学はドストエフスキのもの、その他古典的なものならなんでも結構です。もしあれば差入れて下さい。

哲学は大学教養の概論、西洋哲学史、古教科書でけっこうです。誰か持っていてませんか？
その他、中級程度のマルクス主義講座、クロポトキン、バクーニン、ケラン、大杉栄、幸徳秋水など、その内に英語、一学などむやむやつたりですが、これは家からとりよせるつもりです。とにかく、いまは学習に全力を尽くします。

フル新やシマールナルは読む気がしないので、現代の眼を精読してみようと思ひます。毎号、差入れて下されば幸いです。

広島のみなさんによろしく。

東拘だり

最近、アナキズムにムラムラと変な気をおこし、手紙を書きました。ぼくは、昨秋の佐藤訪米阻止闘争以来、なんと四ヶ月ものフタ箱生活が続いてあります。

文化的水洗便所とともに、三食昼寝の日和見生活ですが、なにかと不便が多いのです。今日は、切手・葉書の購入日です。ので、自連用に20円切手を10枚注文してあります。これは三日後に手に入り、切手は一度に10枚と制限されています。その他にも、手紙は週に3回、ノ西につき2通まで。手紙一通に便せん7枚と決められてあります。これが匿名に決まれば、明治以来の監獄法とやらです。(東拘の愚フタより)

市民意識と変革

佐世保闘争から全共
南運動創出にかけて、
巷にいわけの心算三
派にあらわれた。そして
そのうち比較的自由な
運動体であるへ平連の
運動に参加していった
人達も少なくないはず
だ。その時、彼ら自身
に付いた意識を、僕は
「市民意識」と呼んでみ
たい。

さて、話題はさきめ
て観念的に、市民意識とい
うものがあろうとすれば、それは反
動を予知する強いひきをもつもの
のようである。前衛意識という
ものがあろうとすれば、それは革命
の発端より民衆に君臨し、そのひ
きをもちつづけている。また同胞意識
というものがあろうとすれば、それは
要人の人々に対して不自然な、局
の凝りよつないひきをもち、最悪
の場合には差別感にまでなりそうであ
る。

それにいさかえ、仮に「市民意
識」というものがあるとすれば、
それは社会人として、個人として
しつかりした足場をもつものでは
なからうか。

人民意識は、徹頭徹尾、階級闘争
という方向性を堅持している意識
である。

前衛意識は、一貫して革命のスペ
シャルリスト、もしくは革命の使徒
というふうなもののしつかりした宗教性
をもっている。

同胞意識は、東南アジアに於て、
現在、日本人が嫌悪されているよ
うな意識である。

さて、市民意識とは、僕なりに
定義を試みれば、共同生活圏へ共
同体になり、そこに棲息している人
々の、共同生活圏を視野に入れた
意識、もしくは、個人と共同生活
圏の二つを同時に考える意識、と
する。もっとも、つづきにいえば、前
三者がどれかひとつの方向性
をもつものであるのに対し、市
民意識は、はじめから信仰の対象
となるような方向性はなく、みず
からこれを創出し、且つそれ自身
を変革しうる弾力的なものである。

人民意識には対決すべきものと
して、ブルジョア階級が存在する。

前衛意識には自由な人間にう——自
由共同体。同胞意識には国家的利害
を対立させる他国民の存在（実際、
国家的利害なんてものは民衆の立場
からみれば無きに等しい）。だがし
かし、これらの先験的な人間と人間
のひきは、むしろ果して正しかったら
うか。

ロシア革命の惨劇は、ボルシェウ
ィキの超前衛意識にあったものではな
かったらうか。また人民意識は、暴
力革命を否定しえないのではないに
らうか。戦前の超同胞主義は、ファ
シズムが海外に於て敵対関係を築い
たからに他ならない。

それらの残滓が、学生運動各セク
トの前衛意識、人民意識であり、朝
鮮高校生暴行などに表われる同胞意
識である。

これに対して、市民意識が敵とす
るものは、まさに、此の前三者など
である。共同生活圏とは、つまりが
そのこの身近な社会であり、そ
こに住んでいる各個人の人権を最優
していく意識である。それは各個人
の個性をいしは利害まで、冷静に科
學し、互に討議していくことを基礎
とせねばならぬ。

党派根性や救世者根性などはもつ
てのほかだ。そんな根性によって動
いた民衆が、過去に於て一体、何を
与えたのか。

独立当時のアメリカ人や、コミュニ
ーンのフランス人、革命当時のスペ
イン人のように、自治管理の経験と
もたない日本人が、公使追放運動の
ようににたどるにせよ歩みはじめた
のだ。或る原では、一地域が、地方
自治体・企業・住民が一体となって
協約をとりきめた例がある。これは
市民意識による運動の成果として、
高く評価すべきであると思う。

市民意識による連帯が形成期にあ
る現段階は、体制派市民意識から無
政府的市民意識まで、いろいろの色
合いがあると思うが、共同生活圏に
於て人権尊重の連帯から出発して、
共同生活圏の共同管理（共同体化）
を志向するものとして、明確に論理
化することも必要であると思う。

過去において、アルジェリア独立
戦争の際、マダガスカルという優雅な言
葉で表わした、アルジェ共同生活圏
に於けるアラビヤ人とフランス人の
人権を尊重して独自の運動を展開し
たアルヘル・カミユの努力を、未
来をきりひらくものとして、我々は
学んでいかねばならぬ（江口久雄）

弾薬輸送阻止に無罪

広島地裁支部

1. 富村裁判官の判決骨子

本軍の行為によってわが国に再び
戦争の惨禍を引きおこすことの危険
を被告人が確信する以上、国鉄の弾
薬輸送に反対し、抗議することは当
然である。のみならず憲法12条「憲
法に保障する自由と権利は国民の不
断の努力によって保持されなければ
ならない」

2. 山田争裁判の現段階

現在、福岡と小倉の週辺でいくつ
かの山田争裁判が行われている。
今回無罪の判決を受けた広大生（裁
判もその一つにすぎない。現在弁護
人と被告は検察側を徹底的に追いつ
めている。検察側は、弾薬の種類
とそれがボール、ナパーム弾であるこ
とは周知のこと、量、使用目的を
明らかにした上でなおかつ国鉄の輸
送業務の適法性の立証を怠らな
る。そのことなしには威力業務妨害
に關する起訴の法的根拠は全く論証
できない所まで行っている。当然な
がら検察側は、安保、とりわけ地位
協定や秘密保持に關する刑罰法をた
てにしながら全くの立往生という
ありさまである。

3. 検察側のいい分

富村検事は「これでは社会秩序が
保たれない」という。ここに弾薬庫斗
争に対する検察権力のすゝめ（意図）
がのぞいてある。一体社会秩序とは
何なのか、たんばの中（引き込み線）
上の阻止斗争がいかなる意味で社会
秩序の違反なのか。一通りの住民は
この犯罪的なブルを運ぶのに皆反対
していたのだ。

彼らのいう秩序こそささしく安保
秩序である。行為の違法性のみを求
めて動機を一切問はず、有罪にしよ
うとした他ならぬ検察側の動機（安
保侵略秩序維持という最高度に政治
的な目的に従属する動機が、ここに
白日のもとにあらわになっている。

山田争裁判が安保体制下の暗黒
裁判に終るか、それともコナゴナに
粉砕して、国鉄業務の適法性と公論
濫用の事実を暴露するか。

我々の行為の正当性を立証するだ
けでなく、これを通じて、安保体制
下の裁判なるもの自体を明らかにす
る必要があるのだ。

同志集団について



川安保拒否百人委員会を考へる

百人委員会について考える時、大衆運動はどうあるべきかという問題につきあたる。

百人委について出てきている三つの問題を取り上げてみよう。

一つは百人委という集団の組織のあり方、合意の作り方の問題、そして、街頭での行動に対して市民は日常性に返れという形で問題提起されている問題。最後に我々が無力に徹して非暴力で坐り込む事をどう考えるかという問題である。

この三つの問題を掘り下げていけば、非常に深い思想的な問題に到達するだろう。

我々がなぜへ委員会という発想をとり、同志集団を作ったのかを考えてみよう。

今我々が見ている集団には二つのものがある。一つは有志の集団であり、もう一つは軍隊的原理に基づく組織である。我々はこの二つにはさまれている。そしてこの両方に対する一種のアンチテーゼであるいは止揚として、我々は同志の集団をつくった。

軍隊的な組織は組織決定により万人に強制することが可能だ。逆に有志の集団では旗揚げする者、追隨的に参加する者という分化が生まれる。そしていざふたをあげてみないと何人集まるかわからない。

このリーダーとフォロアーという分化はどちらの組織も超克しえない。大衆運動はこの両方の組織を超えた形でなければならぬ。完全に万人が平等な立場で、下から集団的な自治をつくりあげる。つまり、我々の中からエリート主義・権力主義を追放していくことが大切なのだ。

我々の集団が軍隊組織でも、有志の集団でもありえないという時、我々の中でどのように物事を決定したらよいのか。そこに言葉を登

場させよう。もし12時間坐り込むならば、12時間かけて討論することに意味が見出せるのではないだろうか。なぜそこに坐り込むのかということについて徹底的に内部で意味の確認を行なう。その中で我々の共同性が生み出されていくのだ。

60年から65年にかけての有志の原理は、自分の生活はそのままにして都合のつく時だけ出て来るという型であった。そのタイプは超えられねばならず、当然日常性の変革という問題が加わってくる。

我々の集団を軸として、我々の日常が除々に変わっていく。その中で、マルクスの言えど——日常生活における疎外を、我々が次第に克服し、その意味で共同性をつくり出していく——というプロセスが大事だ。その中で、あす坐り込む方が結婚式になる。ある程度の拘束力を持つことになる。そうでなければ60年・65年型のヒマな時だけ出てやるというタイプを超えることはできない。

我々の運動もやはりプロセスである。プロセスであるからこそ、一人一人の事情を大切にしなければならぬ。と同時に一人一人が事情を変えることも忘れてはならない。

我々は、お互い何も知らぬまま坐り込むことになる。互いに信頼し合い限りは運動は成り立たない。その信頼は言葉にならない種類の連帯だろう。しかしそれだけに頼るのであれば宗教集団になってしまう。同一の信仰に結ばれ、お互い何も言うことではない特攻隊のように目と目を交わせれば全ては解かる、というような集団になってしまう。

運動がそこまで行けばロマンティシズムに陥ってしまう。ロマンティシズムだけを根にしていたら、当然運動自体がロマンティックな帰結をたどってしまう。

大衆運動、市民運動には日常的なものが大事だ。政治の問題は日常の

問題だから。日常的に運動をいかに創っていくかということと言わない限り、それを実現していかない限り、権力の支配に対して時々街頭で大動員的にお祭りを行うだけに終わってしまう。

我々が言葉にならない連帯というものを信じながら、現実的、現実的にはやはり一人一人が違う。その向を理めていくのは、やはり言葉だろう。そういう意味で同一の方向を見つめながら、日常的な差異を認め、それをダイナミックに越えていくくり返しをしなければならぬ。

(すわりこみNo3より)

お知らせ

☆2020年☆
一中・高生を招待

◎期間 8月1日～10日

◎場所 ヤマギシ会豊里実地

近鉄線・津駅下車

TEL 0592661749

費用 1500円(交通費を除く)

◎持物 シーツ、軍手、作業衣

◎定員 50名

◎申し込み 氏名、住所、学校名学年を記入し、三重県安芸郡豊里村

豊里実地内ワークキャンプ実行委

まで。

★集会有るゾー

◎日時 7月29日 午後6時

◎場所 キアツ協会(東京)

地下鉄赤坂見附下車、山王ホテル

前朝日ビル TEL 58313280

◎内容 現代暴力論・向井考

※尚28日にも向井考出席の小集会有る予定。

ワークキャンプ

☆F.I.W.C.関西委員会 宝塚市希望の家 7月25日～8月3日

奈良市中町交差点の交差点

☆F.I.W.C.東海委員会 大津市ありくさ

各市産市昭和区町2-12

☆F.I.W.C.関東委員会 東京市

赤川青年の家 7月25日～8月4日

8月9日

東京市豊島区

高田2-17-17

☆砂川ワーク

キャンプと丁度

文化反成祭

7月18日～26日(25日)

は反成祭・7月23日

17日は三里塚キャンプ

立川市砂川町244



アチュマレー!

手記 ある裁判の記録

(1)

昭和44年11月から昭和45年7月迄

昭和44年11月11日午前6時
京都府警は、全共闘学生が封鎖中のA大学を凶器準備集合の容疑で捜索し、大学が保管していたタクシー・チケットを所持していた13名の学生を緊急逮捕した。

当時現場には学生部長と現次長、法学部長、全共闘部長代行らがいたが、警察の強い要望で盗難届を出すにいたった時には、共産党系といわれる法学部長と、政治的には無能に近い学生部長しか居なかった。

逮捕された13名の学生のなかには、ノンセクトが主流をなしていた全共闘の有力な指導者がほとんど含まれていた。

※ ※ ※

昭和44年11月×日

京都地検はそのうちの1名、相沢君へ仮名、以下登場人物は全て仮名を「窃盗」で起訴した。新聞は「ハレン子罪へ窃盗」で全口はつの起訴。とにきやかに報じた。

校側が相沢君を起訴にかみ切った背景は、まず全共闘内部のハレン子罪をテツチ上げることに、より内争の分断を企てたもので、という意見が強かった。

ことにその社会的反発は、その一ツとして窃盗罪という汚名を着せられたことに対する母親のしやうすいぶり、その効果がある程度成功しているかに見えた。

「オレなどとはいっても殺人未遂やレナなどという言葉が日常化していた活動家の間では、ハレン子罪など養育工ではあったが、いわゆる無関心な学生局や、大学のメンツ、がたいと正直なところおもう大学関係者には、いくらかの興奮剤にはなっていたかもしれぬ。

事実、教授会の一部でも一方的に出されに盗難届や、それが起因した大学内への警察のあしざまな介入に強い批判が起った。

しかし、そこから結論が、大学管理体制の緊密化などというこ

とでは、大学人のプライドというものにも余り信頼はあけそうにない。

相沢君が逮捕されてから一週間後、友人として私は拘留されている署に差入れに行った。

「食料は構わないが、書物はこまる、」というところであった。

さらに一週間後、私はもう一度差入れに行った。そして、相沢君の母親の要請もあり、私は年長の友人として、彼の救援には協力する旨を約束した。

それから以後、私はA大学の救済の学生と何度の話し合うことになる。相互の理解やら、反撥やらをくり返すことになる。

※ ※ ※

第一回公判は昭和45年4月14日が予定されていた。

検察側が10数名のクチャー券所持者のうち相沢君だけを状況証拠のみで起訴に踏み切ったのはおかしい、という疑問が最初からあった。被拘留者のうち、何人かが警察のテツチめけに加担させられているのではない。

三浦田口で出てきた宇野君は、相沢君の母親にも

「彼は奥にまうカンパル。自分も何度かくじけそうになったが、彼に幼まされてカンパリ振った。おそろく彼は完全黙秘しあないかしと語っている。

しかし、彼とは違う意味を持つ学生もいた。

「いりゆる11月決戦の指揮者はA大学では相沢君があらなかった。指揮者を営む他の学生を外に出す為には、相沢君が一人で判断してツミをひくか、あったんじあないか。あることないことしやべったんじあないか。彼ならありえることだ、」というのである。

結局、自ら校側のテツチ上げに加担したことを認めた宇君の証言以外、追跡調査は進展しなかった。億劫や感情の露はオーバーのなかで、「真実」はどうもドンヨリくむり勝ちであった。

やがてスケジュールとあり始められる公判という校側の土俵ではなく、それ以外の、それとは無縁のところ、事実の歪と、真実のあり方に、ついては、何にかえても我々のうちに見出されねばならないハズのものであったが、

相互不信より、そのむこうの可能

性としての「信頼」のほうか、見てくれも良く、精神の健康にとっても必要なことはいうまでもない。

宇野君らは全共闘組織の再編にとりくみ、救援の方向、学生への事実経過の報告、教授会・大学のつきまひ、カンパ要請と急がしくなった。

救済部は金銭的には全く家族に迷惑をかけず自力でやり振くのが原則である、と強調する。じつに結構なコトである。差し入れは毎日精力的に続けられていた。

※ ※ ※

11月末日

京都拘留所の相沢君に接見する。相沢君は云う、「これくらいのことと自分はいってはいない。本当のことをいってほしい。オレは出られるのか。しばらく、あついはずとここにいろことになるのか。次に接見した時、彼は読みた本をいろいろと注文した。流行のマンガは定石とありであったが、レーニソの「国家と革命」をのぞいては、日本の土着の思想家のもの、一昔前なら転向の定石とされたような種類の本が多かった。

12月×日午後

相沢君が保釈になった。保釈金は15万円。弁護士の保証書で5万、現金は10万円であった。「窃盗罪」でしか本人が犯行を否認したま、保釈にならなかつた、と意外な面々と青田君がいう。

相沢君が出てきて、さらに調書のコピが回ってきたところで、初めて校側のつくった「事実」がはつきりした。

それは、私たちが相互の間に少々の痛みをともなうて推量し、確認していた「事実全通」とあまりにもかけ離れていた。

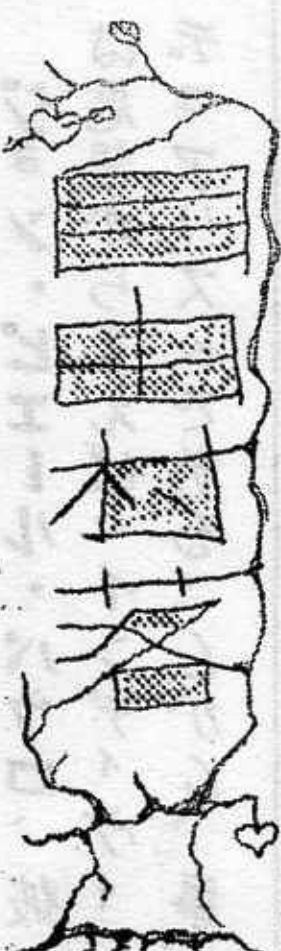
私が最初から恐れていたこと、イヤな予感のイヤな部分だけが悪意をこめて鮮明にその輪郭を現わしてきた。

許しがたいと思われる裏切りがあった。悪いことにそれは、向題の振がりとともにさらに別の裏切りを生んでいくことになるのである。

保釈で出てきた夜、相沢君がつぶやくようにボソソと云ったのは、「数は頼りにならん」ということであつたが。

(一 証言)

アナタニモキレマス!
ナリキリノイロハオシエマス



「広島市千田町広島大学内わだつみ会元付 高自連 千五五〇円」

「目的への手段の一致性としての非暴力直接行動」 全ての権力機構—固定化、規定化された組織相互間における中央権力争奪は必然的に再生産される暴力装置を伴う。それは資本主義国家しかり、福祉国家しかり、国家社会主義しかりである。したがって我々は、
「反権力、絶対自由国家制社会を解体し、評議制社会を形成する」の目的に最大限とりうる開争手段としての非暴力直接行動を提起するが、それは我々の敵が、人間は全て価値不能体であり、客体的、不変的であるという認識の上に、ゆえに個人ではなく制度そのものに指向された開争形態である。

伝言板



「久し振りに高校生の機関紙としてレヴェルの高い読みごたえのあるものである。全国の高校生グループとの交流を求めている。」

「一五〇円 振替京都二二四六番」
「京都府伏見区深草岡土町 稲友荘内 辺境の会」

「ヘオ一号」 竜谷大開争とは何か—その歴史と今日をめぐって—敗け犬のサンバー放逐者のノートより/稲荷山女人喪失—つれづれ「暴力」考 ヘオ二号—親鸞再認識へのアプローチ/革命の朝—ジャズメンは血濡れて死ぬ—二葉憲香論(上)

「福岡県宗像郡赤間福岡教育大内新聞会元付」

革命論へのアプローチ/暴力考/人間存在の空隙/残像
④暴力論を国家権力の問題と関連して展開しようとしているN君の「暴力考」の連載に期待したい。



「東京都千代田区神田三崎町郵便局留」

「科学としてアナキズムを理解するために 滝理/民族と革命—序論 尾関弘/北一輝論—土着化及び変革力 麦次郎」

④最近の「青年アナキスト」連の科学的関心は、大ざっぱに二つの傾向がある。一つは民族に対する関心であり、一つは最新流行の諸科学に関する研究である。新しいものをつぎつぎに取り入れようとするのは、たんに流行を追うのではない限り必要なことである。前者は、一見後向きに見えるが、実はインター、ナショナルイズムが根を張るときに必然的にもたらされたものである。

「ステインプルはたまたま、前者を尾関が、後者を竜がその関心の対象としている。」

黒の赤帖

「東京都新宿区北山伏町三三六天方黒の手帖社 二〇〇円千四五円」

「俺は俺である 大沢正道/官尊民卑について 田木繁/文学のアナ・ボル論争 秋山清/ウイリヘルム、ライヒと現代 M.L.ヘルネリ/アルドノと現代 長谷川進/大杉栄とヘルグリン 三浦精一/スペイン革命戦争におけるCNT J.ペイラ」

現代暴力論

向井孝

「この本をどのよに読み、どのよに利用すれば良いかについて、私的な意見を述べてみよう。」

④大まかに全体を三つの部分に分けて読むことができる。(Ⅰ)ⅠⅣまでの暴力、非暴力に対する概念定義の問題。(Ⅱ)ⅡⅢまでの、いわゆる彼の非暴力直接行動論とも言える部分。(Ⅲ)ⅣⅤまでは、その実践的展開。

②暴力、非暴力の概念定義は、巷に横行する俗流のそれとの区別のために不可欠の作業である。とりわけ個人的暴力と非暴力の概念から社会的暴力と非暴力を明確におさえておくことによって、彼の言う非暴力直接行動は提起される。

③国家は「人民の日常的非暴力性」に依拠し、へ擬似非暴力体制としてある。それは国家が、人民の日常へ生産労働へと自己管理的な社会運営機能に国家の存立基盤をおいているということである。

「ここからへ非暴力直接行動の論理が引き出される。非暴力だけでなく、直接行動だけでもない、その両者が不離一体としてとらえられる概念でなければならぬ。」

向井孝の非暴力直接行動論のユニークさは、論理にへ生産労働への観点を導入した点にある。彼にとって非暴力直接行動は、従来のへすわりこみなどに至少化されるものでなく、豊かなイメージをもったものとしてある。

④章(Ⅲ)はもっとも力を入れて読まれねばならない。

「擬似非暴力体制の下では擬似生産労働しかない。だからそこでの闘いは、へ直接行動そのものではなく、へ非暴力直接行動の奪権と回復の闘いでなければならぬ。それは権力奪取の暴力開争に対して、へ対応暴力であるいはへ反暴力としての非暴力直接行動、すなわちへ開争の次元と質を問題として批判するものである。」

「この本の製作にあたって、執筆、印刷等すべての過程が運動の一環として進められた。そのためにも、この本が運動の中で読まれ、読む事自体が運動であるような利用のされ方を期待する。これを機会に非暴力直接行動を研究する会が全国に作られるよう呼びかける。その成果をぜひ自連社に報告して欲しい。研究成果を読者全員のものにするために、自連社紙上に発表していきたい。」

「新しい形で作られたこの本を新しい形で読んでみたい。そのためには、著者と読者がこれを契機にして同じ問題に対して、一緒に考えて行くことであろう。本が出たということは、ただその作業の開始のための契機にすぎない。(へひろくおせき) ⑤研究のための海賊出版大歓迎。但し、事前の連絡をとう。利根追東お断り。」

ヨーロッパ
ANARCHISM
武者修業の記(13)
尾関弘
Situation de mouvement anarchiste en Europe

フロレンスのアナキストグループ、テルクロ、カミロー、メルネリ、カミロー、メルネリ、サール、の事務所は、学生街の下宿屋の地下にあった。イスがびり置いてある十畳ほどの広さの集会室が二つと、印刷室、なにか知らないがタスルヘッドのある研究室と便所がある立派なものだ。事務所に専従員はいないが、何時行っても誰かがいた。ぼくもしばらくこのタスルヘッドのある部屋で泊り込んで、印刷をしたり、ビラ入れをしたりの日常生活を一緒にしたことがある。

フロレンス大学は、イタリアでも学生運動の盛んな大学で、イタリア共産党の他に、毛沢東主義者とアナキストがしのぎを削いで勢力を争っていた。事務所に出入りする者と、学生が中心である大きなデモなどのとき以来、彼らの日常活動は、ぼくらのそれと、そんなに変わるものではない。週三回、ほとんど一日おきにやっている研究会、深夜のビラ入れやボスター張り、自分達の機関紙やパンフレット、イタリアアナキストの週刊紙「ウマニタ、ノルマ」(新しい人間性)の街頭売り、委託販売店の開拓。スズレーによる深夜の落書き作成も重要な運動の一つだ。その他個人的には、地域で映画クラスを組織したり、団地で消費者組合を組織したり、反戦運動に参加したりしている。

彼らにとりたてて目新しい運動はない。しかし毎晩、ある時間になると自然といろんな活動をしている人達が事務所に集まって、ワイワイかやかや言いながら何かを始める。それが、日常として持続されている。というところに学ぶべき点があるようだ。

× × ×
ジョン・ピエール・パウロ、彼は思想から言えば、インディヴィデュアリストである。しかし、事

務所の雰囲気が好きなのか、毎晩やってくるのは部屋の間の方でぐっぐと聞いている。けっして自分から積極的に発言したことの無い男だ。

彼は自称するように住むべき国を持たない。生れたのはイタリアだが、アルゼンチン、ポルトガル、イギリス、ギリシアなど、いろんな所で生活してきた。だからいろんな国の言葉を話すができる。いま空手を習っていて、空手用語なら日本語もいくつか話すができる。

彼がアルゼンチンの高校でバスケットをやっていたとき、彼の二つ上の部長が、あのチェ、ゲハラだった。ジョン・ピエールによると、ゲハラはそのころから素晴らしい勉強家スポートでできる少年だったようだ。彼はきまじめ一方で、バスケットの試合などで相手が反則をしようものなら、激怒してなぐりかかったりもしたらしい。ジョン・ピエールにとっては、ゲハラは恐ろしいほど厳格な部長だったのだらう。

「俺もずつとゲハラと一緒にやっていれば、今ごろはキューバの何とか大臣になっていたかも知れないな」と言ってみんなを笑わせた。

ジョン・ピエールは、ぼくが英語で書いたいくつかの記事をイタリア語に翻訳してくれた。いまも親しくつながっている。フロレンスからぼくが去る時、彼はマラテスタ全集から二巻、自分の好きな本をプレゼントしてくれた。その裏に「革命は私の意志だ」とサインしてあった。

チェリト教授はフロレンス大学で歴史を教えているアナキストシンパの教授だ。いやシンパと言うと失礼になる。ちゃんとしたイタリアアナキストの連盟員であるから同志と呼ぶべきだろう。

かつてアナキストの学生が共同で借りているアパートの食堂で、フロレンス地区のアナキストの集会があつてぼくも出席したことがある。うすぐらい汚い食堂の一角で、チェリト教授はみんなと一緒に木の長いスに腰かけて、ずつとがまん強く話聞いている。それは当然なのかを知らないが、大学での教師と学生が、運動をする場に来るとまったくの同志としてつき合っているのをすばらしく思った。

このような集会では、チェリト教授は実際運動についてはほとんど発言しないが、観念主義的あるいは口

マン主義的になりやすい若いアナキストの傾向に対してはきびしく、現実的な、良い意味での政治的な運動を主張していた。

とりわけ、マルクス主義を充分知らないでマルクス主義を批判したり、マルクス主義者ほどにも理論活動をしていないアナキストの怠慢を批判したりした。

彼は一人の活動家であると同時に、現在のイタリア、アナキズム運動の大きなイデオログである。最近の著書に「イタリアの軍国主義」とか彼のライフ・ワークである「イタリアアナキズム運動史」を書いていて、これはいま、オースティン・タターのところまで来たが、すでに二分冊になっているのだから、一九七〇年まで書くには、何冊の本になるか想像もつかないようなぼう大なものだ。表面的に派手な運動の裏にこのような地味な仕事が必要なのを、彼らから強く示唆された。(つづく)



④自分にとって自連とは何かという向いに明確な答えを出さぬまま編集に加わることは無責任に思える。このことは自連に属するすべての人間に突きつけていい。皆が明確な答えを出した時、自連は大きな力となるだろう。

⑤自連社は運動体ではない。新聞を発行するための経費を体でしかない。運動があるとしたら「経費」のための運動である。僕自身、自連が運動であるという幻想をばじめからもっていた。そのことは必死的に自分を自連の中に埋め込めることになった。

⑥自連は自分の運動から帰ってくる場であり、又新に出発する場でもある。しかし僕自身が自分の運動をどうしている以上、自連は自分の運動へのトンネルのようなものだ。自連は決して僕の骨を埋めるところではない。

⑦現在、自連は徹底的な人不足である。このことは「経費」のための運動を忘れていたことからくる。現在のメンバーは正直なところ三、四人。当然その三、四人のうち10日は自連にふりまわされる。事務所に追われ、印刷に追われ、ここに小川信の言う「創造物としての自連作」などありえないのかを知らぬ。そのことは単に現在の編集者の怠慢というだけでは片づけられない。あると思う。未完(かあること)

自由連合 18号用アンケート

- Ω このアンケートは、姫路市亀山354へ返送して下さい。
- Ω 自連を毎号郵実に入手する為には出来るだけ直接定期購読して下さい。
- Ω 購読料納入には振替口座をどしどし御利用下さい。番号は 大阪1264 です。
- Ω あなたも自連に原稿を 送 いて下さい。又記事になるような資料、
 株主権を送って下さい。多くのグループとの交換を希望します。

④ 次の項目に○印などをお入れ下さい。

Ⅰ 本号に注目する記事はありましたか。

(イ) あった (ロ) なかった それは 頁の

Ⅱ 読む程でもない記事は

(イ) あった (ロ) なかった それは 頁の

Ⅲ 今後の自連送付は？

(A) すでに申し込み済 (B) 今号から購読する (C) 送付不用
 (D) 時々カンパするから送れ (E) 次号から 部に変更

Ⅳ 自連とはトンナンカナとか読んでミタイナとか思っている人を
 紹介して下さい。

あなたの なまえ ところ		し ん じ	と し

